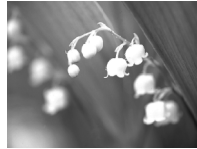


かんきょう再生ニュース



この情報はインターネットより、資料として収集致しました。各々マスコミ各社の著作権が有ります。大量に印刷する等は、ご連絡願います。誌友会等の環境問題に関する参考となれば幸いです。



《東京第一教区》 <http://homepage3.nifty.com/soukaika-tokyo/> 《教育110番》 <http://tokyo.cool.ne.jp/nisankatanso/saku.htm> 《父親教室/お父さん頑張って》 <http://homepage2.nifty.com/6789/index.htm>

相愛会環境問題編集部

平成17年6月8日発行 第003號

《エネ》リチウム電源技術を使用した乗用車やV o I P製品開発・販売大手の米ハイブリッド・テクノロジーズ(OTCBB:HYBT)は、同社傘下のR・エレクトリック・カー、グローバル・ハイブリッド、ソリアム・パワー、ホイッスラテルの各社と共同で、「ハイブリッド・リビング・ホーム」の建設に着手したと発表した。「ハイブリッド・リビング・ホーム」は、太陽光や風力により発電した電力をリチウム電池に蓄電し、ハイテクで環境に優しい生活環境に必要な電力のすべてを賄う、新しいライフスタイルのモデルハウスで、化石燃料は一切使用しない。報道関係者への完成披露は来月28日の予定で、北米チャレンジ・ソーラー・カーレースがカナダ・アルバータ州カルガリーでゴールインするのと同日の公開となる。(時事通信) -6月7日

《環境》地域の海浜清掃活動や環境教育に取り組んでいるNPO法人「沖縄海と渚保全会」(読谷村)が地域環境保全功労者として環境大臣賞を受賞し6日、都内のホテルで表彰された。保全会は1996年に発足し、これまで読谷村内の海岸を中心に120回以上の清掃活動を展開。小・中・高校で出張環境教室を開いたほか、教育用のCDROMを作成し、530校に無料配布した地道な活動が評価された。保全会のメンバーは現在、約230人で、うち3割が小中学生、家族ぐるみの参加も多いという。毎月1回の定例会のほか、企業のボランティアと共催で清掃活動を展開することもある。学校の環境教室では海岸に放置され、散乱するごみの

現状をデータで示し、子どもたちに環境保全の大切さを伝えている。(琉球新報) -6月7日

《エネ》谷垣財務相は10日からロンドンで開かれるサミット財務相会合(G8)では各国と中国など新興4カ国が集う11日の朝食会では、グローバル化を象徴する国々を交え、「忌憚ない意見交換をするのは大事なことだ」と述べて。中国との関係では、「人民元の問題であるとか、中国経済は好調だが全体としてスムーズな発展にあるのかどうか、ということが議論になる可能性が高い」との見通しを示した。

G8財務相会合では原油の増産要請をするのかとの質問に対し、「世界経済に与える影響を注視していかなくてはならないが、今まで積み重ねてきた議論と変わるもの、今度議論してこれが決め手だというものがあるわけではない」と指摘。

そのうえで、「生産国側の問題や消費国側のエネルギーの効率的な使用、マーケットの透明性といった問題が今まで議論されてきたが、そういうことを一つ一つ積み重ねるとのことだ」と語った。(ロイター) -6月7日

《エネ》大阪ガスエネルギー技術研究所は堀場製作所と共同で、バイオガス中のシロキサン濃度をリアルタイムで計測できる装置を開発した。バイオガスエンジンのトラブル源となるシロキサン化合物濃度をppmオーダーで分析できる。リアルタイムで計測可能な装置はこれまでなく、バイオガス燃料によるコージェネレーション(熱電併給)システムの普及促進につなげる

のが狙い。装置は可搬型。コージェネシステムに使用するバイオガスエンジンに容易に設置でき、シロキサン濃度を連続分析できる。

《エネ》中央省庁で始まった夏の軽装化、いわゆる「クールビズ」を全国の自治体や企業にいう「ネクタイ族」の10%強が実行した場合、1008億円の生産波及効果があるとの試算を、第一生命経済研究所がまとめた。名目国内総生産(GDP)で637億円の押し上げ効果が見込まれるという。省エネルギー活動の一環であるクールビズの普及に政府は熱心で、小泉純一郎首相をはじめとする閣僚が、こぞってノーネクタイで閣議や執務に臨んでいる。(日刊工業新聞) -6月6日

《エネ》中国政府のエネルギー関連シンクタンクである能源研究所の戴彦徳副所長は、中国は国内エネルギー需要の急増に伴い、段階的に緊急用原油備蓄を行う方針だと明らかにした。米国に次ぐ世界第2位の原油消費国である中国は今年、戦略的原油備蓄の拡大を開始すると予想されており、市場関係者はこれが国際原油価格をさらに押し上げる要因になると考えている。中国は東岸部の都市、寧波でのタンクに8月から緊急用原油備蓄を開始することが可能で、いずれ1億5000万バレルの備蓄能力を備える予定。当初の目標は20日分の貯蔵を目指している。(ロイター) -6月6日

環境問題はグローバルな視点から、身近な問題まで緻密に関連して居ます。身近な所から取組もう。先ず足元から浄化を。